

## 要望演題

📅 Fri. Nov 14, 2025 2:30 PM - 3:20 PM JST | Fri. Nov 14, 2025 5:30 AM - 6:20 AM UTC 🏠 Room 9

## [R14] 要望演題 14 予後因子

座長：小森 康司(愛知県がんセンター消化器外科部), 山田 岳史(日本医科大学)

### [R14-3] 大腸癌患者におけるCachexia Indexの予後予測能の評価

丹田 秀樹<sup>1</sup>, 渋谷 雅常<sup>1</sup>, 月田 智也<sup>1</sup>, 内藤 信裕<sup>1</sup>, 大森 威来<sup>1</sup>, 福井 康弘<sup>1</sup>, 田中 章博<sup>1</sup>, 小澤 慎太郎<sup>1</sup>, 西山 毅<sup>1</sup>, 米光 健<sup>1</sup>, 関 由季<sup>1</sup>, 黒田 顕慈<sup>1</sup>, 笠島 裕明<sup>1</sup>, 福岡 達成<sup>2</sup>, 前田 清<sup>1</sup> (1.大阪公立大学医学研究科消化器外科, 2.大阪市立総合医療センター)

#### 背景

悪液質は、進行性の骨格筋量減少を主徴とする多因子性症候群であり、がん患者における予後規定因子の一つとして注目されているが、その客観的評価法は依然として確立されていない。近年、新たな悪液質評価指標として「Cachexia Index (CXI)」が提唱され、予後予測マーカーとしての有用性が期待されている。本研究では、根治的切除を受けた大腸がん患者を対象に、CXIの予後予測能を検証した。

#### 方法

2017年1月から2019年12月に大阪市立大学病院において、大腸がんに対する根治切除術を施行された299例を対象に後ろ向き解析を行った。Skeletal Muscle Index (SMI)、血清アルブミン値 (Alb)、好中球リンパ球比 (NLR) を用いて、従来のCXI (S-CXI) を算出した。加えて、SMIの代替としてPsoas Muscle Index (PMI) を用いた新たなCXI (P-CXI) を、 $PMI (cm^2/m^2) \times Alb (g/dL) / NLR$  により導出し評価した。RFSおよびOSとの関連を、単変量および多変量Cox比例ハザードモデルにより解析した。

#### 結果

全299例中、S-CXI high群は219例、low群は80例であり、P-CXI high群は114例、low群は185例であった。いずれの指標においても、low群ではRFSおよびOSが有意に短かった (S-CXI : RFS,  $p=0.011$ 、OS,  $p=0.001$  ; P-CXI : RFS,  $p=0.002$ 、OS,  $p=0.005$ )。多変量解析において、P-CXIが低値であることは、RFSおよびOSのいずれにおいても独立した予後不良因子であることが示された (RFS : HR = 2.629、95% CI : 1.312–5.266、 $p=0.006$  ; OS : HR = 2.716、95% CI : 1.064–6.933、 $p=0.036$ )。

#### 結論

P-CXIは大腸がん根治切除後の長期予後と有意に関連していた。P-CXIは日常臨床における予後予測マーカーとして、有用である可能性が示唆された。